別添

1　令和元年/平成31年中の県内の火災発生状況

令和元年/平成31年中（平成31年１月～令和元年12月）の県内の火災発生状況は下表のとおりです。

○　全出火件数は528件で、前年より43件減少しました。
○　建物火災は354件で、前年より23件減少しました。
○　林野火災は29件で、前年より７件増加しました。
○　火災による死者数は43人で、前年より10人増加しました。
○　高齢者の死者数は25人で、前年より２人増加しました。
○　放火自殺等を除く死者は34人で、前年より６人増加しました。そのうち65歳以上の高齢者は24人で、70.6％を占めています。

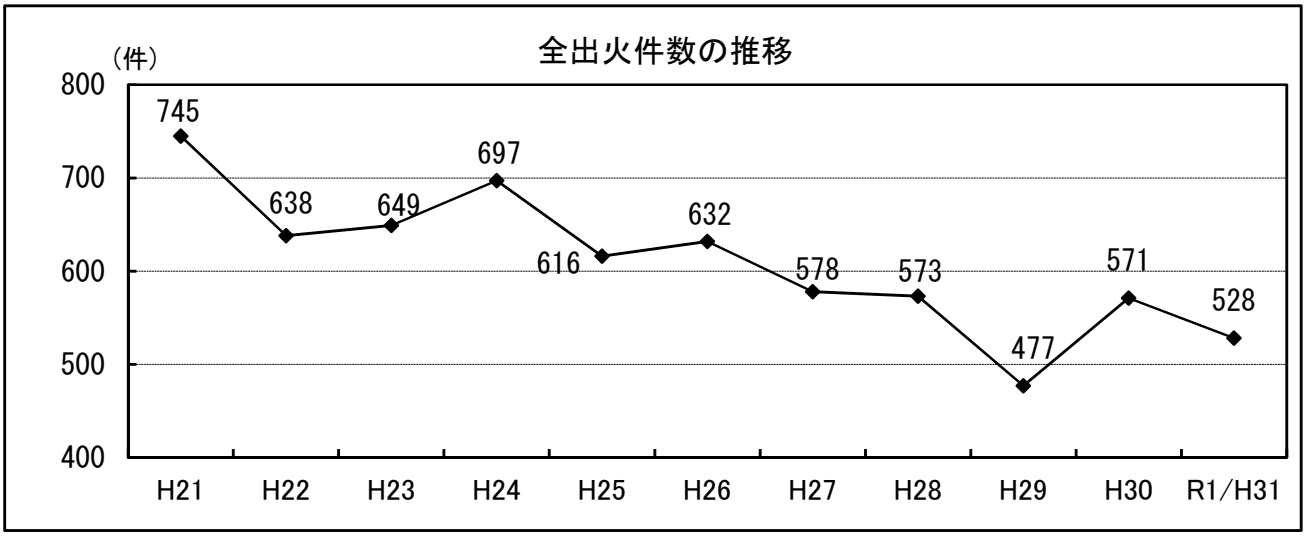
区分/年別	令和元年/平成31年			平成30年	過去10年平均※5
		平成30年との比較	過去10年平均との比較		
出火件数(件)	528	-43 (-7.5 %)	-90 (-14.5 %)	571	618
建物火災	354	-23 (-6.1 %)	-63 (-15.0 %)	377	417
住宅火災	206	-11 (-5.1 %)	-37 (-15.1 %)	217	243
林野火災	29	7 (31.8 %)	8 (35.5 %)	22	21
車両火災	66	-4 (-5.7 %)	-7 (-9.3 %)	70	73
船舶火災	3	2 (200.0)	2 (328.6 %)	1	0.7
航空機火災	0	0 (－)	0 (－)	0	0
その他火災※1	76	-25 (-24.8 %)	-30 (-28.4 %)	101	106
全死者数(人)	43	10 (30.3 %)	1 (2.4 %)	33	42
放火自殺等を除く※2	34	6 (21.4 %)	3 (8.6 %)	28	31
建物火災	31	7 (29.2 %)	3 (12.3 %)	24	28
住宅火災	30	9 (42.9 %)	5 (17.6 %)	21	26
放火自殺等	9	4 (80.0 %)	-2 (-15.9 %)	5	11
高齢者の死者数(人)※3	25	2 (8.7 %)	2 (9.2 %)	23	23
放火自殺等を除く	24	4 (20.0 %)	4 (21.2 %)	20	20
建物火災	21	3 (16.7 %)	3 (16.7 %)	18	18
住宅火災	21	5 (31.3 %)	4 (25.7 %)	16	17
放火自殺等	1	-2 (-66.7 %)	-2 (-67.7 %)	3	3.1
負傷者数(人)	107	-26 (-19.5 %)	-20 (-15.8 %)	133	127
損害額(百万円)	1,459	76 (5.5 %)	-654 (-30.9 %)	1,383	2,113
焼損棟数（棟）	618	-24 (-3.7 %)	-89 (-12.6 %)	642	707
焼損床面積(㎡)	29,715	-1,588 (-5.1 %)	-9,068 (-23.4 %)	31,303	38,783
出火率※4	2.35	-0.17	-0.28	2.52	2.63

※1 その他火災は空き地や田畑、河川敷などで出火した件数
※2 放火自殺等：放火自殺者、放火自殺の巻添者及び放火殺人の犠牲者
※3 高齢者：65歳以上の人
※4 出火率：人口１万人当たりの出火件数
※5 過去10年平均は平成21年から平成30年の平均

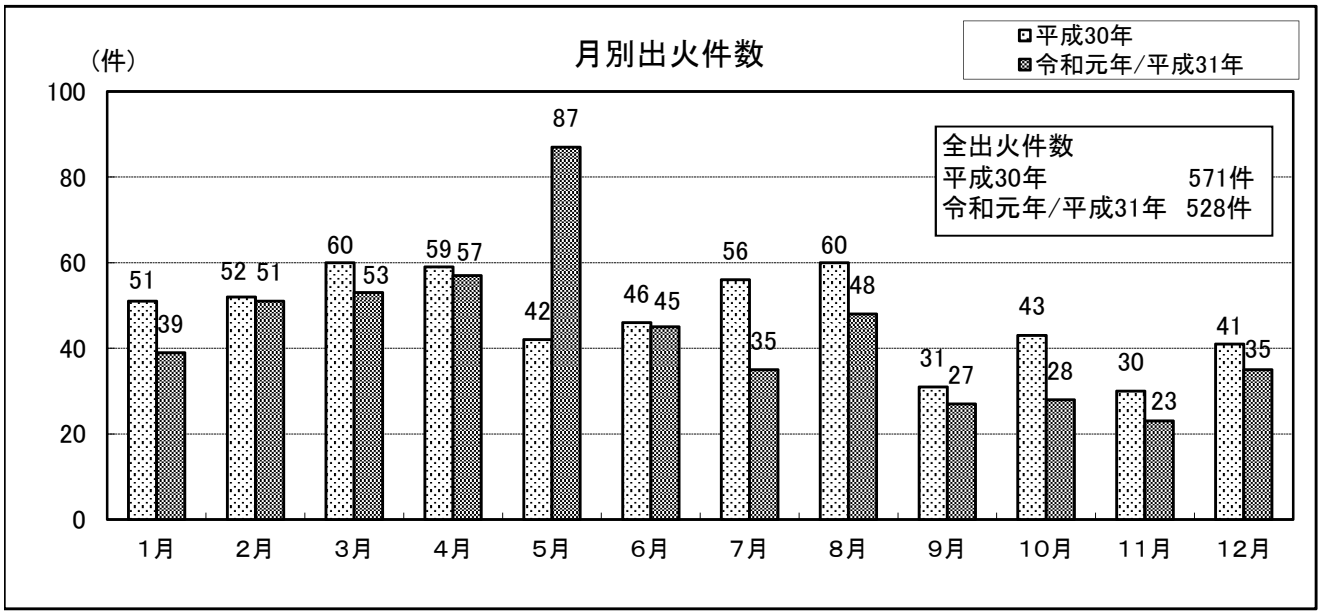
２　令和元年/平成31年中の火災の特徴

（１）出火件数

令和元年/平成31年中の全出火件数は528件で、前年より43件減少しました。

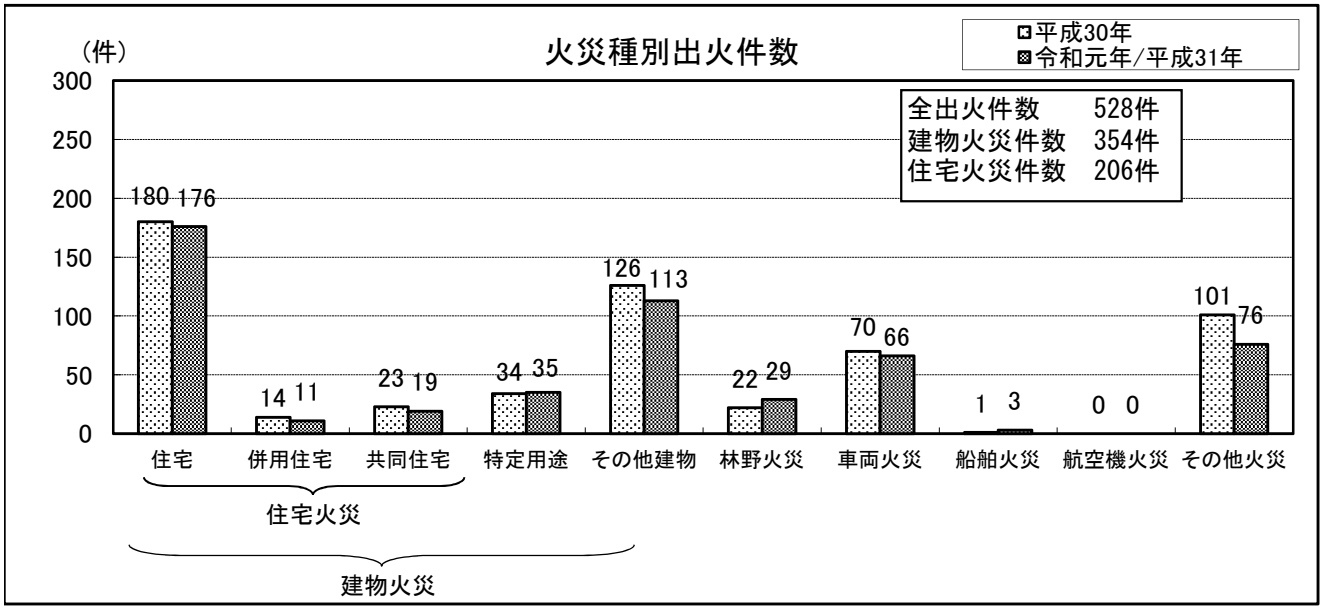


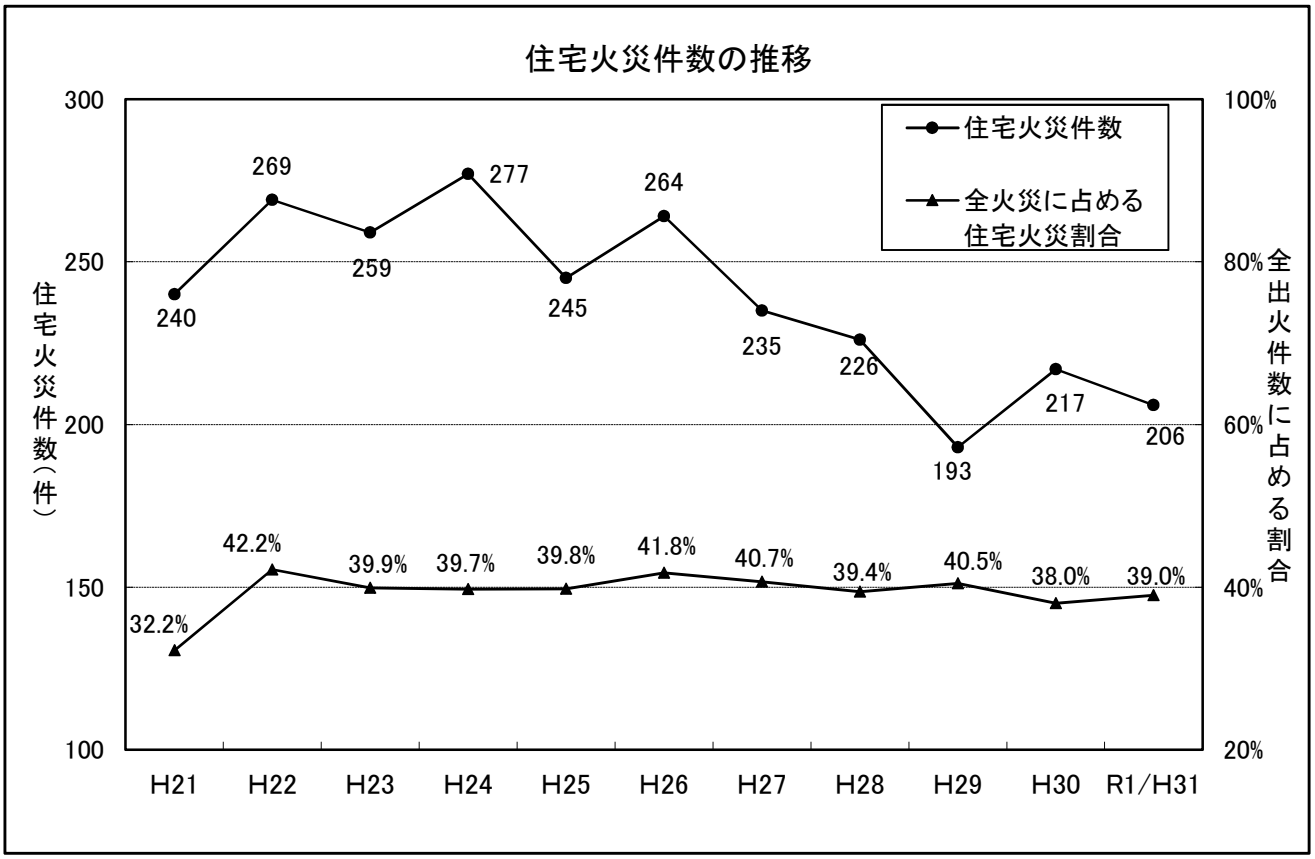
令和元年/平成31年の月別出火件数では、5月に火災が多く発生しました。



火災種別出火件数では、「建物火災」が最も多く354件でした。「建物火災」が全火災に占める割合は67.0％となっています。

「建物火災」のうち「住宅火災(併用住宅、共同住宅含む。以下同じ。)」は206件で、前年に比べ11件減少ました。「住宅火災」が全火災に占める割合は39.0％、また「建物火災」の58.2%を占めています。



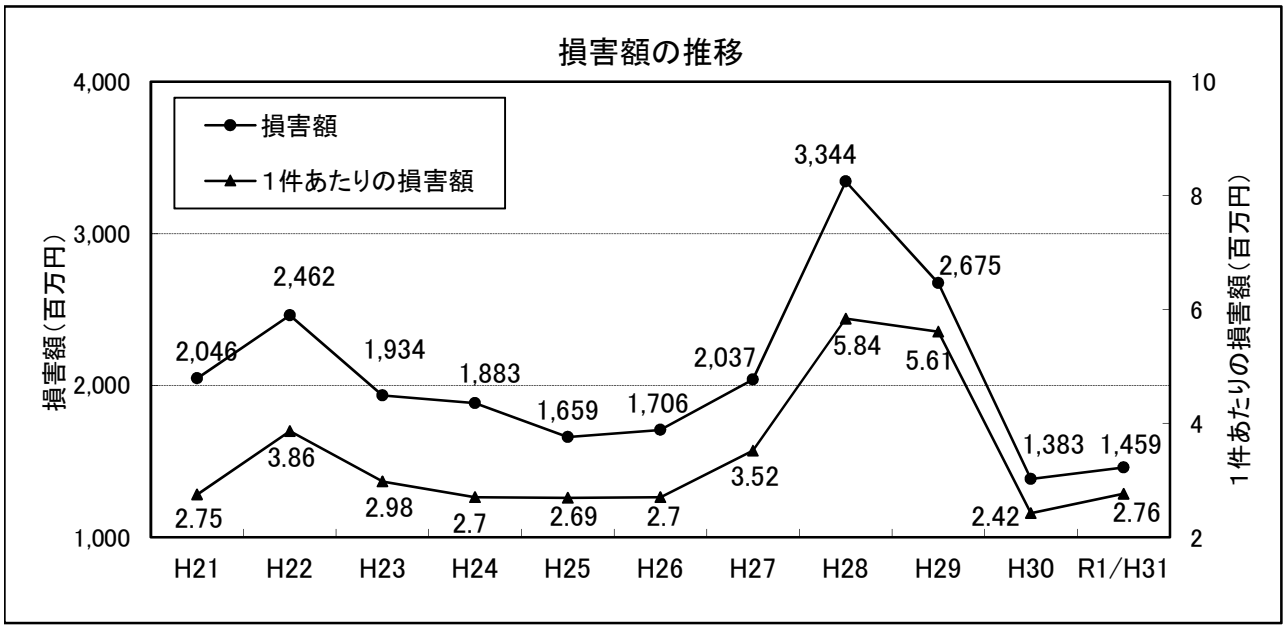


（２）損害額

令和元/平成31年中の火災による損害額は、14億5,858万円で、前年より7,549万円増加しました。

また、火災１件当たりの損害額は276万円で、前年より34万円増加しました。

１日当たりに換算すると400万円となっています。

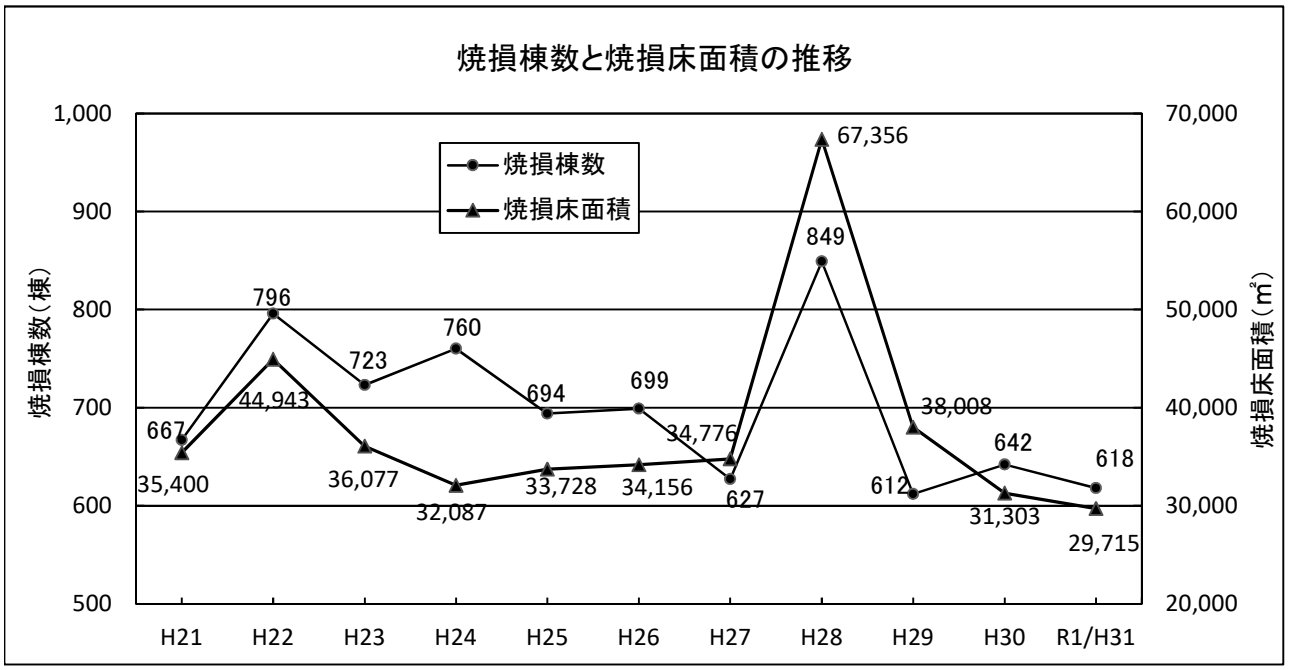


（３）焼損棟数と焼損床面積

令和元年/平成31年中の焼損棟数は618棟となり、昨年より24棟減少しました。

また、焼損床面積は29,715㎡となり、昨年より1,588㎡減少しました。

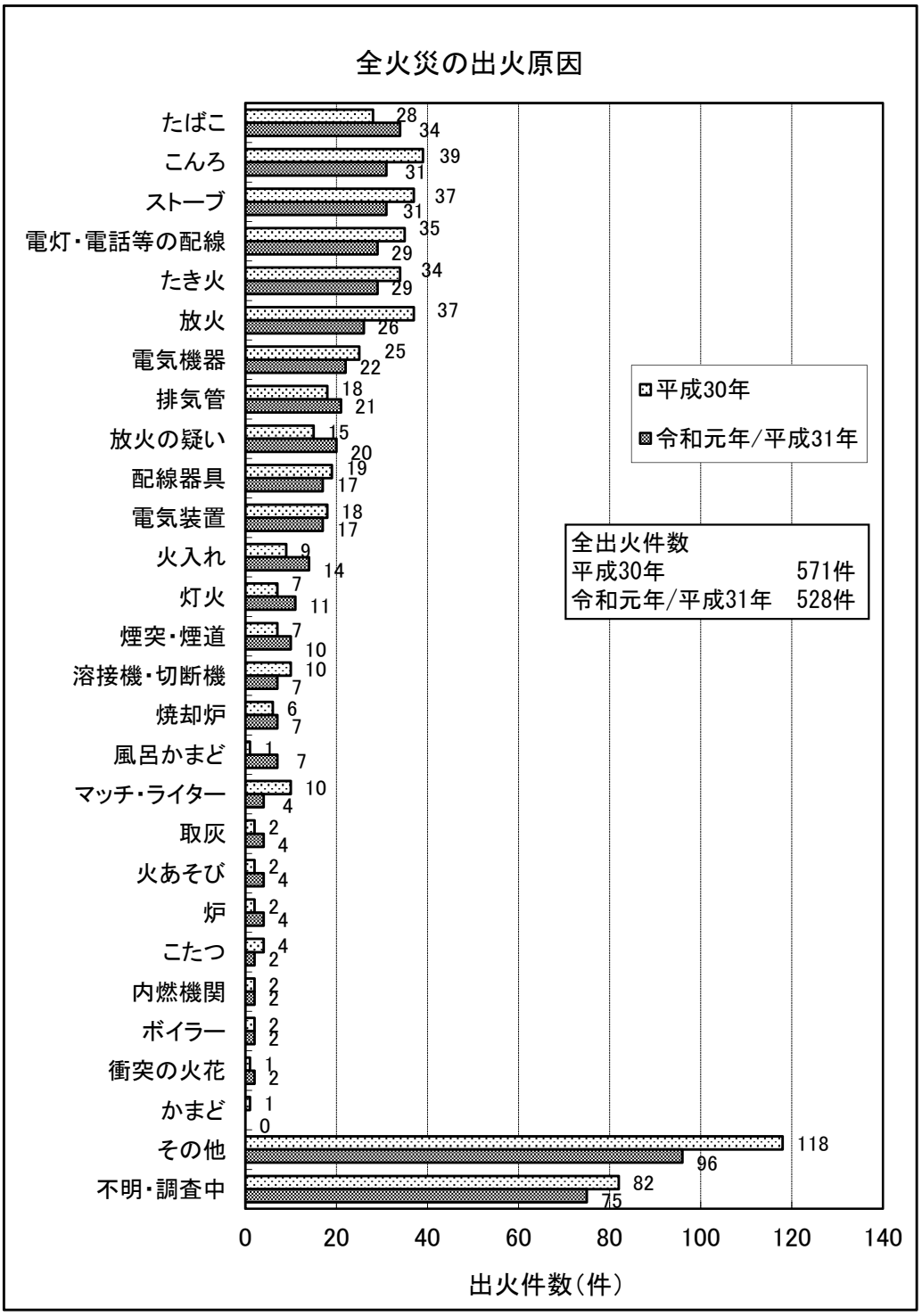
過去10年平均と比較すると、焼損棟数は89棟、焼損床面積は9,068㎡減少しました。



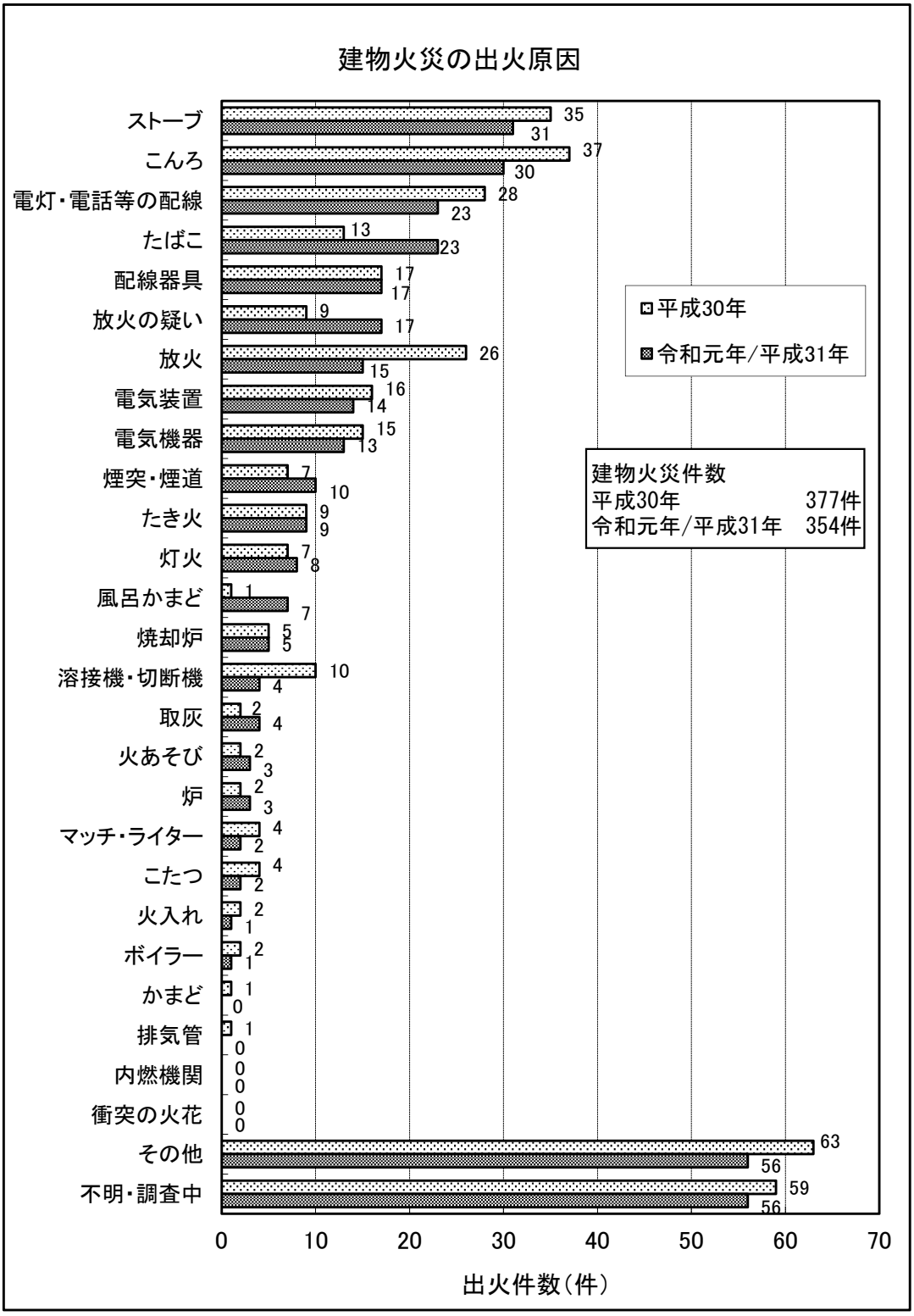
（４）出火原因

全火災528件の出火原因は、「たばこ」が34件で最も多く、次いで「こんろ」「ストーブ」が31件、「電灯・電話等の配線」「たき火」が29件となっています。

「放火」と「放火の疑い」を合わせた件数は46件で、全出火件数の8.7％(前年9.1％）を占めています。



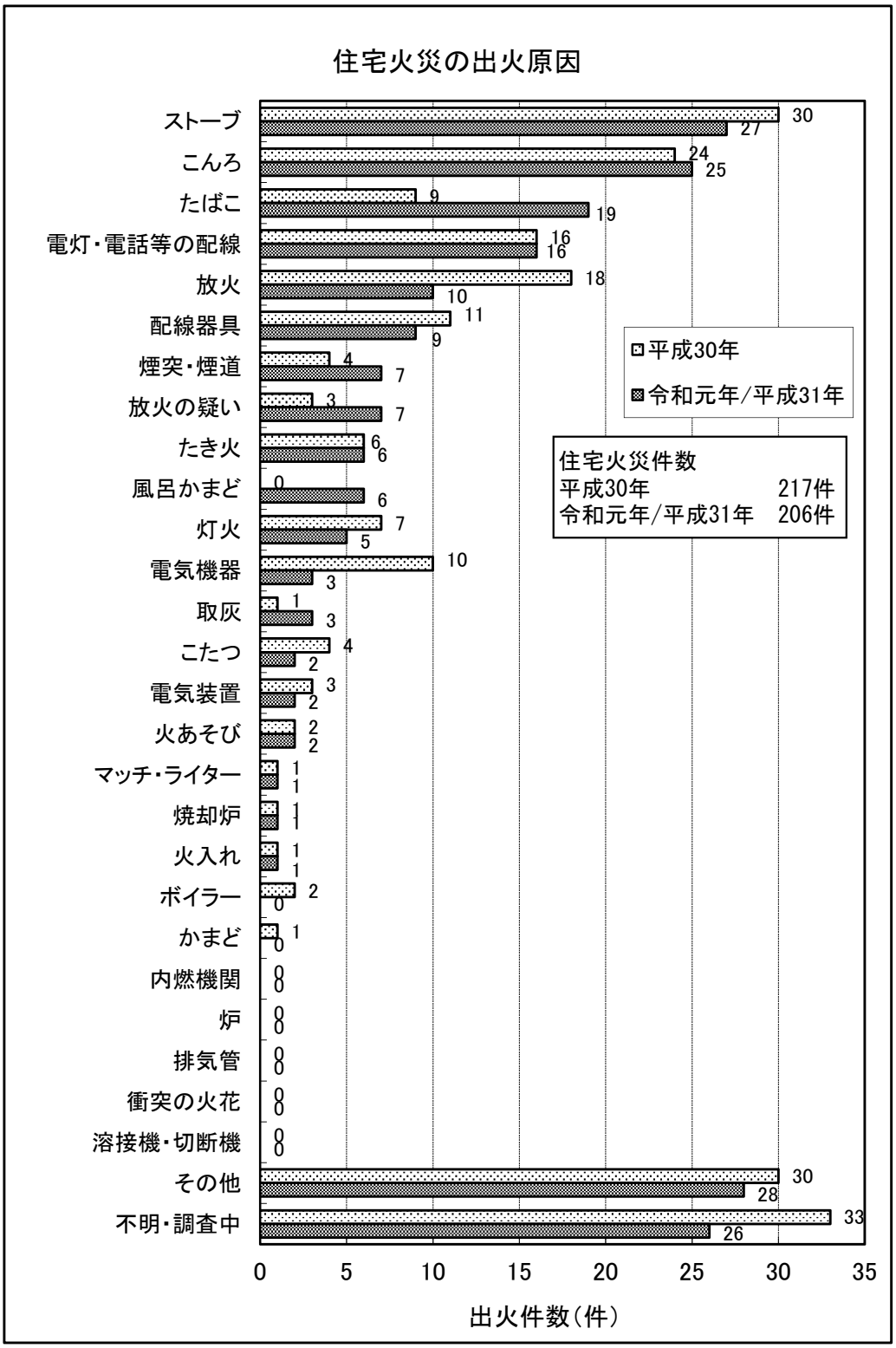
建物火災354件の出火原因は、「ストーブ」が31件で最も多く、次いで「こんろ」が30件、「電灯・電話等の配線」「たばこ」が23件、「配線器具」が17件となっています。
「放火」と「放火の疑い」を合わせた件数は32件で、全建物火災出火件数の9.0%(前年9.3%）を占めています。



住宅火災206件の出火原因は、「ストーブ」が27件で最も多く、次いで「こんろ」が25件、「たばこ」が19件、「電灯・電話等の配線」が16件、「放火」が10件となっています。

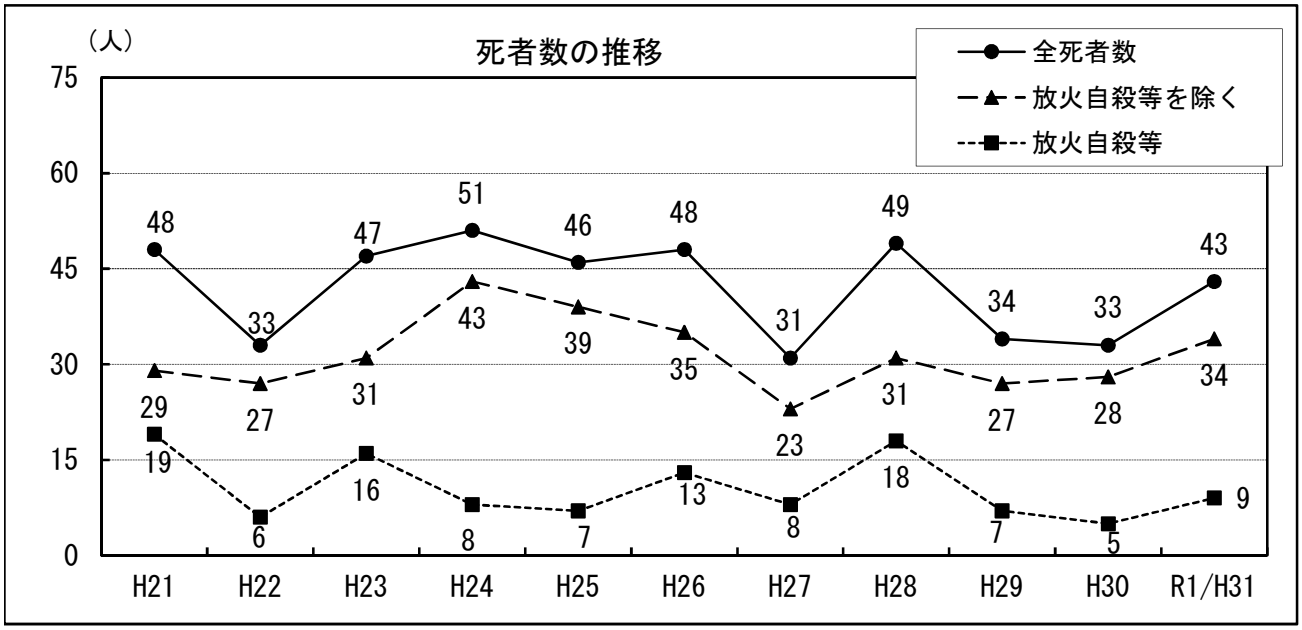
「ストーブ」「こんろ」「たばこ」を合わせた件数は71件で、住宅火災件数の34.5%（前年29.0%）を占めています。

また、「放火」「放火の疑い」を合わせた件数は17件で、住宅火災件数の8.3%（前年9.7%）を占めています。



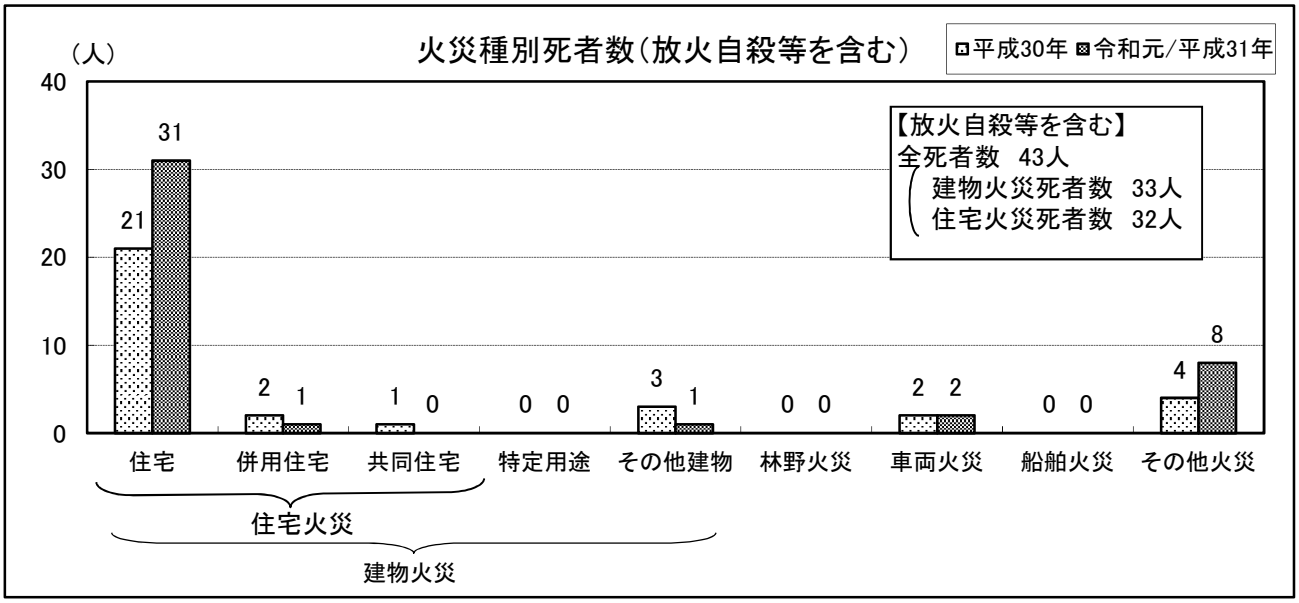
（５）死　者　数

令和元年/平成31年中の火災による全死者数は43人で、前年より10人増加しました。このうち、放火自殺等を除く死者数が34人で、前年に比べ6人増加しました。放火自殺等による死者数は9人で、前年に比べ4人増加しました。

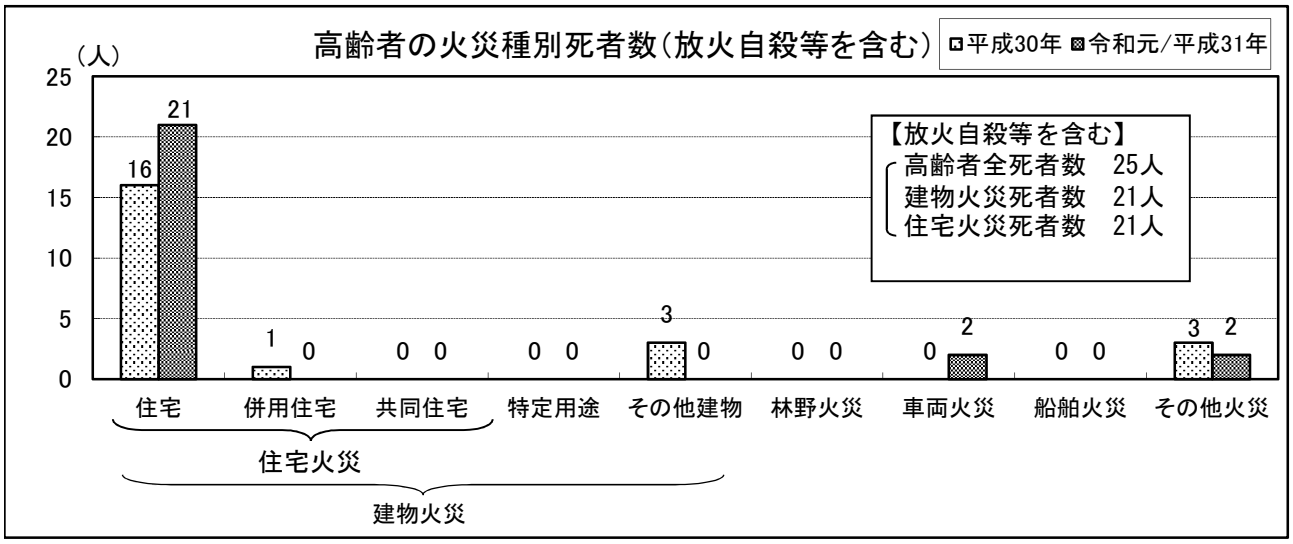


火災種別死者数では、令和元/平成31年中は「建物火災」による死者が33 人で、前年に比べ6人増加しました。また、「住宅火災」による死者は32人で、前年に比べ8人増加しました。

なお、「建物火災」の死者に占める「住宅火災」の死者の割合97.0%で、出火件数の割合58.2%と比較して非常に高くなっています。

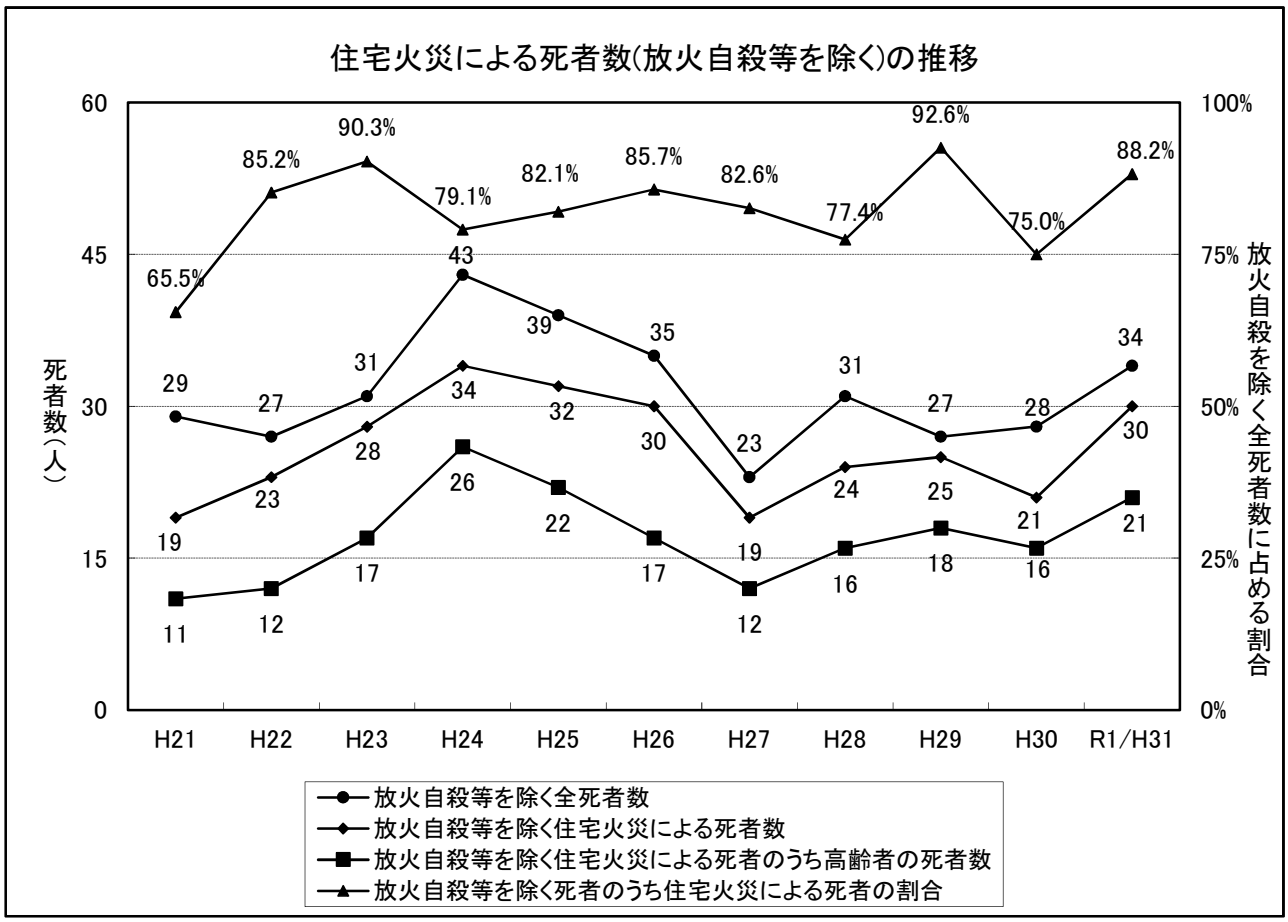


65歳以上の高齢者の死者数は25人で、前年に比べ2人増加しました。そのうち「建物火災」による死者数が21人で、全高齢者死者数の84.0%を占めています。



令和元年/平成31年中の放火自殺等を除く死者34人のうち、住宅火災による死者は30人で、88.2%を占めています。

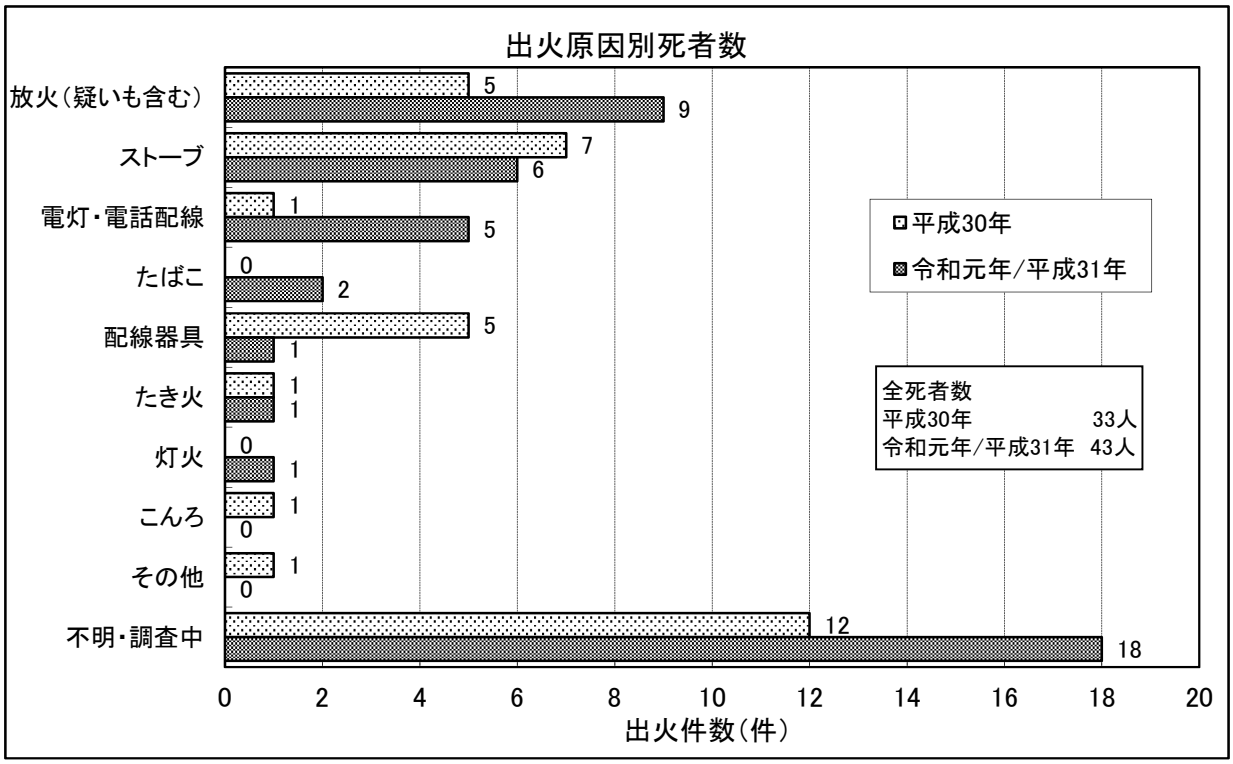
また、住宅火災による死者30人のうち、65歳以上の高齢者は21人で、70.0%を占めています。

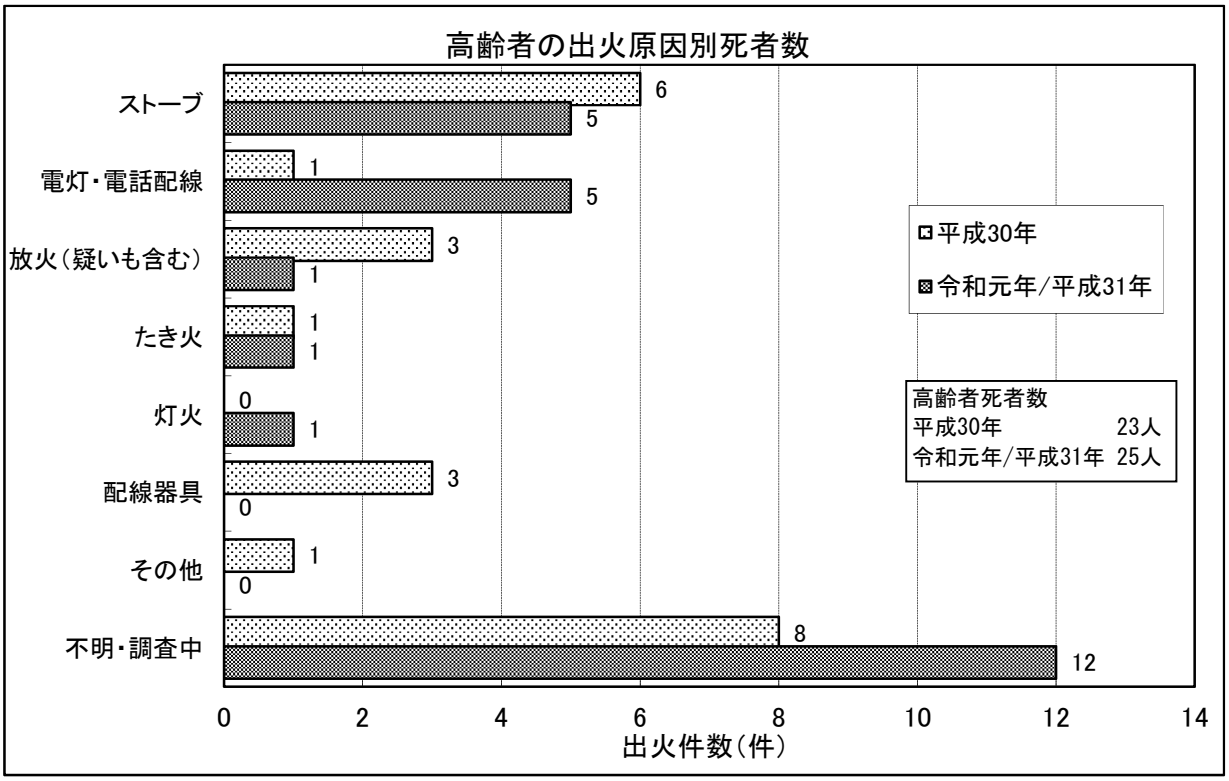


（６）出火原因別死者数

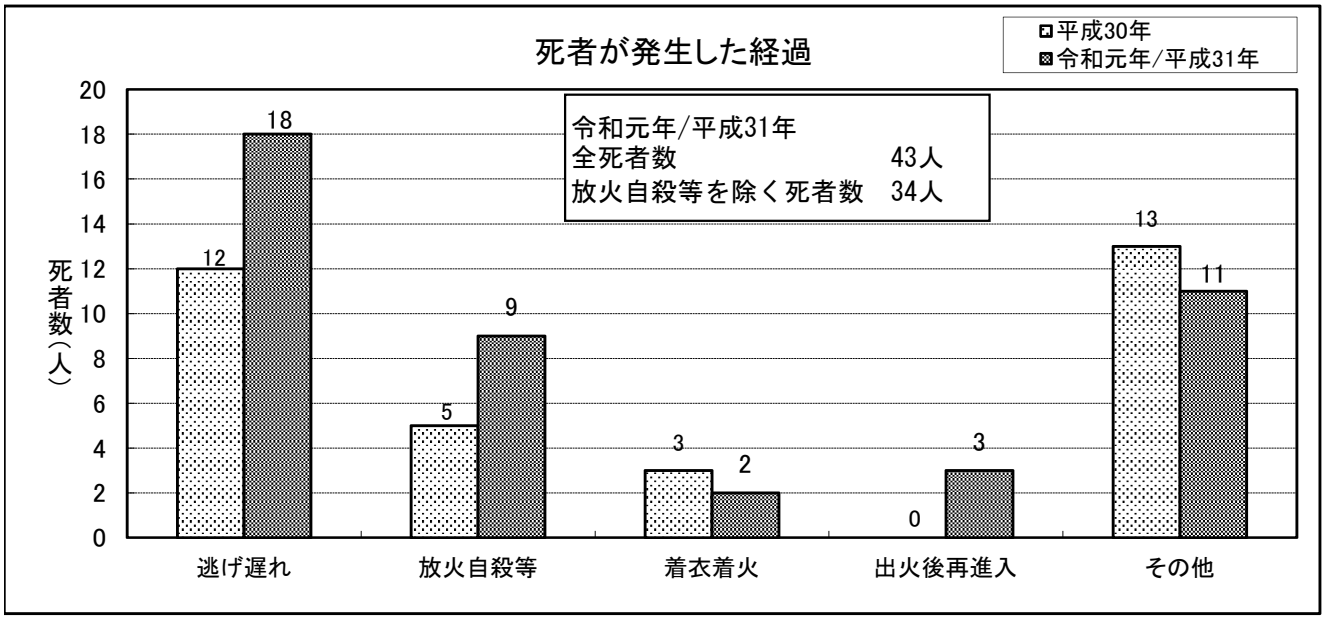
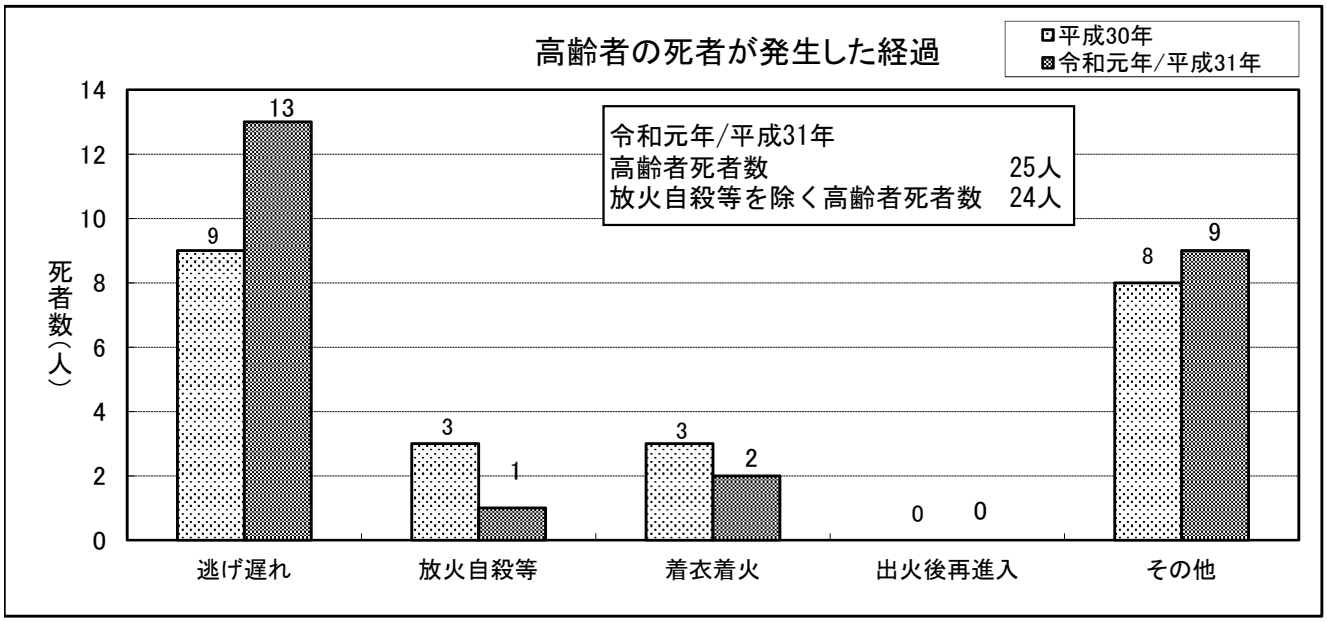
令和元年/平成31年中の出火原因別死者数は、「放火（放火の疑いも含む）」が9人で最も多くなっています。

また、65歳以上の高齢者では、「ストーブ」が5人で最も多くなっています。





（７）死者の発生した経過

令和元年/平成31年中の死者の発生した経過は、「逃げ遅れ」が18人で最も多く、次いで「放火自殺等」が9人でした。放火自殺等を除く死者数34人のうち「逃げ遅れ」は52.9%を占めています。

また、65歳以上の高齢者では、「逃げ遅れ」が13人で最も多くなっています。放火自殺等を除く高齢者死者数24人のうち「逃げ遅れ」は54.2%を占めています。